

すべての子どもによりよい保育を！

全保連・活動推進ニュースNo.128

2022. 9. 7

全国保育団体連絡会 / TEL:03-6265-3171 / FAX:03-6265-3230 / URL <https://www.hoiku-zenhoren.org/>

こども家庭庁創設を前に、現場の実態を、願いを 国・自治体に届けようー国会請願署名スタート

政府は、2023年度から「こども家庭庁」を創設し、社会の真ん中に子ども関連施策をすえて、その充実・推進を図るとし、予算の倍増まで公言しています。それならば、遅れている保育所等の環境・条件を抜本的に改善する方向へ転換すべく、来年度予算も大幅増額すべきです。

小学校では、40年ぶりに基準が改善され、全学年で35人を上限とする少人数学級が実現します。ところが、保育所の保育士配置基準は、久しく改善がなく、4・5歳児の基準(子ども30人に保育士1人)に至っては1948年の基準制定以降70年以上一度も改善されておらず、国際的にも低水準のまま放置されています。とりわけ、コロナ対応によりひっ迫した保育現場の状況を踏まえれば、改善は待たなしです。

こども家庭庁が動き出すのを黙って見ているのではなく、一緒に国や自治体に働きかけようと、地域の保育者・保護者に呼びかけ、署名や議員要請、自治体懇談等にとりくみましょう。

今後の運動について

1. 国・自治体に向けて

- ①国会請願署名を広げよう
 - ・地元選出国會議員と懇談、紹介議員の要請
- ②自治体への働きかけ
 - ・自治体向けの署名や意見書等
 - ・自治体との懇談や要請

2. 宣伝活動～署名をもって外へ出よう

- ・11月を「署名月間」として、11.3保育大集会や11.20全国宣伝行動を中心に、各地で宣伝しよう
- ・地域や園で、保育現場の願いや要求を社会に知らせる活動を工夫しよう

3. 署名をきっかけに制度学習をすすめよう

- ①合研録画配信(～9/25まで)、ちいなか11月号(9月末発行)を活用しよう
- ②Zoomを活用し、地域で署名の学習や交流を行い励ましあって活動しよう

子どものための予算を大幅に増やし、保育士の増員など、保育・学童保育制度の抜本的改善を求める請願書

署名用紙は全保連HPからダウンロードできます。1枚3円+送料で送付可

<今後の予定>

9～10月 署名運動の宣伝・学習

10月25日(火) 第1次集約

★11月は署名月間★

11月2日(水) 国会要請行動

11月3日(木・祝) 保育大集会

(東京・日比谷野外音楽堂)

11月20日(日) 全国各地で宣伝行動

～世界子どもの日～

※第2次集約：11月末～12月初め(予定)

大阪は2023年1月末(最終)

「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」一部改正でパブコメ募集 保育所の基準の形骸化を許すな！

パブコメに意見を集中しよう

厚生労働省は「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準等の一部を改正する省令案」に関するパブリックコメントを提起しています。保育所等の基準を4つの点で改定しようとしています。子どもや保育を守るための基準が骨抜きにされる内容を含んでいます。何が提起され、どんな問題があるのかを知ったうえで、現場から声をあげる必要があります。

なお、パブリックコメントの意見の締め切りは9月21日です。また、厚労省はそれを踏まえて10月には、省令を改定するとしています。急ぎましょう。

○省令案（概要） <https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/PcmFileDownload?seqNo=0000239975>

○意見募集要項 <https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/PcmFileDownload?seqNo=0000239974>

一部改正する案の内容や問題点は、別紙資料をご覧ください。

意見の提出方法

- ・郵送、もしくは意見提出フォーム（パブコメのサイトより）で、意見を提出できます。
- ・件名「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準等の一部を改正する省令案に関する意見」を明記

(1)電子政府の総合窓口（e-Gov）の意見提出フォームを使用する場合

案件番号495220145

「パブリック・コメント：意見募集案件」における各案件詳細画面の「意見募集要領（提出先を含む）」を確認の上、**意見入力へ**のボタンをクリックし、画面の指示に従い入力・送信する

(2)郵送する場合

〒100-8916 東京都千代田区霞が関1-2-2 厚生労働省子ども家庭局 総務課企画法令係 宛て

合研録画配信活用を！

9月5日より合研の録画配信が始まりました！8月20・21日に高知会場からLive配信した企画に加え、録画配信限定講座6つと大充実です。「一緒に見て語りあう場づくり」に取りくみましよう！

- 1「気になる子」が変わるとき—困難をかかえる子どもの発達と保育 木下孝司(神戸大学大学院)
- 2 じょうずに食べる、食べさせる—摂食機能の発達と援助 山崎祥子(らく相談室)
- 3 保育の安全と子どもの命を守る職員集団づくり 寺町東子(弁護士)
- 4 保育制度・政策 情勢講座—コロナ後にどんな保育制度を展望するのか
中山徹(奈良女子大学)・大宮勇雄(元福島大学)・小泉広子(桜美林大学)
- 5 やさしい保育制度・運動入門講座 保育研究所「入門講座」プロジェクトチーム
- 6 へいわってどんなこと？—絵本で伝えたい いのち・へいわ・けんり 浜田桂子(絵本作家)

10月2日(日)全国実行委員会 Zoom/10~16時

54回合研を振り返り、高知をはじめ各地のとりくみを共有します。

実行委員会に向けて、「地域のまとめ」を9月20日（火）までに送って下さい（用紙は窓口に送付済）。

